津市立八ツ山小学校だより

この学校にわたしたち

2023. 6. 19　　NO15

当事者の声を聴きましたか？

学校の中では黒板・テレビ・教科書など見るということが多く求められます。しかし、最近の研究で、ロービジョン（弱視）やディスレクシア（読み書き障がい）など人の見え方は様々で、視力が著しく弱くぼんやりとしか形を捉えられない、視野の一部が欠けて見える、狭い範囲しか見えない、色の違いが分からないなど、抱えている課題は人それぞれ異なるということが分かってきました。最近、書体デザイナーの高田裕美さんのインタビュー記事を目にしました。高田さんは、もともと高齢者が広告を見やすいよう、高齢者向けのフォントを開発していたそうです。その時、ロービジョン研究の第一人者である慶應義塾大学の中野泰志先生と出会い、先生から「当事者の声を聴きましたか」というひとことにハッとしたそうです。そして、そのことがきっかけでロービジョンの児童と会い、授業の様子を参観し、必死に文字を読もうとしている姿から「何が何でもこの子たちに読みやすいフォントをつくらなければ…」と強く誓ったそうです。頭で想像したり、人から聞いた情報だけではなく、実際に現場に足を運び、自分の目で見ることによって間違った思い込みに気づいたりします。最近、いろいろなところで“多様性の社会”と言われるようになってきていますが、大切なのは“誰かから聞いた情報ではなく自分の目で見る”ことの大切さを改めて考えさせられました。高田さんは苦節８年の年月をかけて**UD デジタル教科書体というフォントを開発したと言います。（←この部分がそのフォントです）**　今まで文字を読めなかった子が「これなら読める！オレはバカじゃなかったんだ……」と言って皆で泣いてしまったそうです。裏を返せば、「文字が読めない」ということで苦しい思いをしている子がいるのだという現実を私たちは忘れてはならないと思います。そういった子が１人もいなくなることが本当の意味の多様な社会であると思います。６月２３日には人権授業参観のあと、PTA 人権講演会を行い、“性の多様性”というテーマで講師の方に講演をしていただきます。５・６年生と保護者が今回は対象となっていますので是非ご参加をお願いします。

きな粉揚げパンと子どもの呼びかけ

６月９日（金）は出張でした。この日の給食は“きな粉揚げパン”で楽しみにしていたのですが、夕刻までの会議のため、とても悲しい気持ちで出張に出かけました。この日は会議の内容も重いことばかりで帰りも重い気持ちで運転をしていました。帰ってきて車を降りるとまず、高学年の子どもから「こうちょーせんせ～い」と声をかけてもらい、とても嬉しく心が晴れやかになりました。校長室に入ると“揚げパン”が机の上に残してもらってありました。ちょっとしたこのことが人の心を軽やかにするのだと、感謝の涙をうかべながら、きな粉揚げパンをいただきました。